

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション理論ⅡC		（ THB102 ）
講義名（コード）	コミュニケーション理論ⅡC		（ THB102C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN1に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	9/25 必修パターンN2聴解 ポイント理解 1 9～2 2 TRY!N2文法
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/2 必修パターンN2聴解 概要理解 2 3～2 6 TRY!N2文法
3	質問に対する的確な答えが言える。	10/9 必修パターンN2聴解 概要理解 2 7～3 0 TRY!N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	10/16 必修パターンN2聴解 即時応答 3 1～3 9 TRY!N2文法
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/23 必修パターンN2聴解 即時応答 4 0～4 8 TRY!N2文法
6	質問に対する的確な答えが言える。	10/30 必修パターンN2聴解 統合理解 4 9～5 2 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	11/6 必修パターンN2聴解 統合理解 5 3～5 6 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	11/13 必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
9		11/20 JLPT模試
10		11/27 JLPT模試 12/1 JLPT
11	総合的な聴解力を身につける。	12/4 必修パターンN2聴解 模試問題 TRY!N2文法
12	総合的な聴解力を身につける。	12/11 後期のまとめ
13	総合的な聴解力を身につける。	1/15 後期のまとめ
14	期末試験	1/22 学期試験
15	追試・フィードバック	1/29Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン聴解 N2 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コミュニケーション理論ⅡD		（ THB102 ）
講義名（コード）	コミュニケーション理論ⅡD		（ THB102D ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	9/24 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/1 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
3	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	10/8 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	10/15 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/22 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
6	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	10/29 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	11/5 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	11/12 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
9		11/19 JLPT模試
10		11/26 JLPT模試 12/1 JLPT
11	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	12/3 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
12	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	12/10 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
13	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	1/14 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
14	期末試験	1 /21 学期試験
15	追試・フィードバック	1/28 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 II		（ THB104 ）
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 IIC		（ THB104C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体的内容と概要	日本の風土や文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、豊かで明確な表現力をつけるため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。 授業時間内に模擬面接を実施する予定。 出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化理解① 文化の違いを理解できる	見える文化と見えない文化 『おもてなしの日本語』第5課－1
2	異文化理解② 共生するための努力ができる	見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど） 『おもてなしの日本語』第5課－2
3	異文化理解② 共生するための努力ができる	見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚） 『おもてなしの日本語』第5課－まとめ
4	異文化理解③ 日本文化に関心をもつことができる (1)	見えない文化（異文化の中で働くには） 『おもてなしの日本語』第6課－1
5	日本の地理と風土を学ぶ①	日本の世界遺産① 日本の世界遺産について概要を理解し、自身の興味をさらに深くする。『おもてなしの日本語』第6課－2、敬語④
6	日本の地理と風土を学ぶ②	日本の世界遺産② 日本の世界遺産についての魅力を整理し、効果的なプレゼンテーションを作る。『おもてなしの日本語』第6課－まとめ
7	日本の地理と風土を学ぶ③	日本の世界遺産③ 日本の世界遺産について魅力を考え、伝えたいことをプレゼンテーションする。『おもてなしの日本語』第7課－1
8	日本の「まつり」について① 「まつり」について概要を知る	日本の「まつり」について概要を知る 『おもてなしの日本語』第7課－2
9	日本の「まつり」について② 「まつり」について、意見を交わす	日本の「まつり」について調べて、考える→グループワーク 『おもてなしの日本語』第7課－まとめ
10	日本の「まつり」について③ 「まつり」について発表する	日本の「まつり」について発表する 『おもてなしの日本語』第8課－1
11	日本の食文化①	「和食」（ユネスコ無形文化遺産）①地域ごとの郷土料理紹介（寿司、うどん、味噌、漬物など） 『おもてなしの日本語』第8課－2
12	日本の食文化②	「和食」（ユネスコ無形文化遺産）②「お弁当」文化 『おもてなしの日本語』第8課－まとめ
13	日本の食文化③	「和食」（ユネスコ無形文化遺産）③ 和食の特徴や魅力を理解し、新たな食について考えてプレゼンテーションする
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 II		(THB104)
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 IID		(THB104D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解 異文化理解① 文化の違いを理解する	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目 思考と発信練習：見えない文化と、見える文化について、シャドーイング
2	語彙・図での内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目 思考と発信練習：見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど）、シャドーイング
3	語彙・比較問内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目 思考と発信練習：見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚）、シャドーイング
4	語彙・グラフ内容理解 異文化理解④ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目 日本の世界遺産① 日本の文化遺産の概要を知る、シャドーイング
5	語彙・比較問内容理解 異文化理解⑤ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目 調べ学習：日本の世界遺産② 日本の文化遺産のうち一つを取り上げ、調べ、特徴をまとめる
6	図・表・比較問内容理解 異文化理解⑥ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目 調べ学習：日本の世界遺産③ 日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる、シャドーイング
7	文法・接続詞・副詞理解 異文化理解⑦ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦ 発表練習：日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
8	異文化理解⑧ 日本に興味を持つことができる	発表練習：日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
9	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
10	文法・接続詞・副詞理解 日本の歴史的災害について①	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 1 日目 調べ学習：日本の歴史的災害について概要を知り地理的特徴を捉える、シャドーイング
11	文法・接続詞・表理解 日本の歴史的災害について②	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 2 日目 調べ学習：日本の災害と対策について調べて、考える、シャドーイング
12	文法・図・接続詞副詞理解 日本の歴史的災害について③	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 3 日目 発表練習：日本の災害対策について発表する、シャドーイング
13	後期まとめ	後期の活動内容のまとめ JLPTの型式になれる
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プレゼンテーション演習 II		(THB104)
講義名（コード）	プレゼンテーション演習 IID		(THB104D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりと定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解 異文化理解① 文化の違いを理解する	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目 思考と発信練習：見えない文化と、見える文化について、シャドーイング
2	語彙・図での内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目 思考と発信練習：見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど）、シャドーイング
3	語彙・比較問内容理解 異文化理解② 共生するための努力ができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目 思考と発信練習：見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚）、シャドーイング
4	語彙・グラフ内容理解 異文化理解④ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目 日本の世界遺産① 日本の文化遺産の概要を知る、シャドーイング
5	語彙・比較問内容理解 異文化理解⑤ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目 調べ学習：日本の世界遺産② 日本の文化遺産のうち一つを取り上げ、調べ、特徴をまとめる
6	図・表・比較問内容理解 異文化理解⑥ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目 調べ学習：日本の世界遺産③ 日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる、シャドーイング
7	文法・接続詞・副詞理解 異文化理解⑦ 日本に興味を持つことができる	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦ 発表練習：日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
8	異文化理解⑧ 日本に興味を持つことができる	発表練習：日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介）
9	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
10	文法・接続詞・副詞理解 日本の歴史的災害について①	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 1 日目 調べ学習：日本の歴史的災害について概要を知り地理的特徴を捉える、シャドーイング
11	文法・接続詞・表理解 日本の歴史的災害について②	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 2 日目 調べ学習：日本の災害と対策について調べて、考える、シャドーイング
12	文法・図・接続詞副詞理解 日本の歴史的災害について③	必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 1 3 日目 発表練習：日本の災害対策について発表する、シャドーイング
13	後期まとめ	後期の活動内容のまとめ JLPTの型式になれる
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	サステナビリティとビジネス II		（ THB110 ）
講義名（コード）	サステナビリティとビジネス II		（ THB1100 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	異文化理解を学び、複数の視点を持った「真の国際人」になる。 異文化理解の授業で学んだことを活かし学園祭で異文化理解をテーマにしたイベント実施する。
全体の内容と概要	異文化理解の講義を行う。その講義の中で「異文化間で起こる軋轢」「なぜ起こるかの分析」「その解決法は」などのブレinstoーミングを行う。その学びを活かすイベントを学園祭に活かす。
授業時間外の学修	他校の面白い学園祭の動画をたくさん視聴してほしい。
履修上の注意事項等	異文化理解を学ぶにはTBLは最適な場所である。ブレinstoーミングのチャンスを毎回設定するので積極的な意見交換をしてほしい。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	オリエンテーション
2	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義① ブレinstーミング「日本で驚いたこと」
3	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義② ブレinstーミング「日本で感心したこと」
4	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義③ ブレinstーミング「日本で困ったこと」
5	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義④ ブレinstーミング「日本で行きたい場所」
6	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義⑤ ブレinstーミング「外国人から日本についてよく聞かれる質問200」
7	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	異文化理解についての講義⑥ ブレinstーミング「外国人から日本についてよく聞かれる質問200」
8	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	学園祭に向けたグループ研究・学習①
9	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	学園祭に向けたグループ研究・学習②
10	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	学園祭に向けたグループ研究・学習③
11	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	資料づくり
12	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	研究発表①
13	異文化理解を学び、複眼的な思考のできる「真の国際人」を目指す	研究発表②
14		後期期末試験
15		フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特にない。
参考文献・資料等	「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」久米昭元 長谷川典子 著 (有斐閣選書) 「異文化理解入門」原沢伊都夫 著 (研究社)
備考	<u>旅行業界で38年間の経験を持ち、うち6年間はハワイに駐在。その後、日本エコツーリズム協会で理事・事務局長を5年間務める。観光実務に精通し、特にハワイのDMO成功事例に詳しい。現地でのイベント運営やリピーター創出の観点から、持続可能な観光の実践と魅力創出をリードしてきた。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティングⅡ		(THB116)
講義名（コード）	マーケティングⅡ		(THB116)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	HB2	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎を理解し、実社会に出たときに応用できる知識を習得します
全体の内容と概要	マーケティングの4Pを中心に実社会ではどのように使われているのかを示しながら理解します
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	マーケティングを「感覚」ではなく「理論」で身につけること

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	製品戦略の基本を理解する①	4_「製品戦略」のポイントとは何か?①
2	製品戦略の基本を理解する②	4_「製品戦略」のポイントとは何か?②
3	祝日	休講
4	製品戦略の基本を理解する③	4_「製品戦略」のポイントとは何か?③
5	価格戦略の基本を理解する①	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?①
6	祝日	休講
7	価格戦略の基本を理解する②	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?②
8	流通戦略の基本を理解する②	5_「価格戦略・流通戦略」のポイントとは何か?③
9	祝日	休講
10	コミュニケーションの概要を理解する①	6_「コミュニケーション戦略」のポイントとは?①
11	コミュニケーションの概要を理解する②	6_「コミュニケーション戦略」のポイントとは?②
12	従来のマーケティングとデジタルマーケティングの市街を理解	7_マーケティングは「デジタル」の時代へ!
13		後期の復習
14		後期試験
15		試験の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識
参考文献・資料等	
備考	授業のPDFは各時間用で作成

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マネーマネジメント II		(THB118)
講義名（コード）	マネーマネジメント II		(THB118)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	ホスピタリティ・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 玲	時間数	30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	後期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄			授業形態

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本授業では、ビジネスのお金の動きについて、会計処理の視点からとらえ、学ぶことを軸にしている。具体的には、簿記の学習を通じて、ビジネスでのお金の動きを見て、マネーマネジメント
全体的内容と概要	前期のマネーマネジメント I と合わせて、通年で商業簿記を学ぶ。各項目ごとに学習し、時間があれば、演習問題にトライする。後期は主に試算表作り、決算、原価計算、施設関係の処理等を
授業時間外の学修	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション テーマ14の復習	後期授業内容の確認と前期最終の帳簿について復習する
2	テーマ15 試算表	試算表の理解と勘定計算のまとめ
3	テーマ16 決 算	決算の意味と財務省表の作成
4	テーマ17 決算整理Ⅰ 現金過不足	実際の取引と簿記上との金額の差異の処理方法
5	テーマ18 決算整理Ⅱ 売上原価	売上原価の定義と計算方法
6	テーマ19 決算整理Ⅲ 貸倒れ	債権の回収不能による貸し倒れの処理方法
7	テーマ20 決算整理Ⅳ 減価償却	有形固定資産の購入と使用による費用計算
8	テーマ21 決算整理Ⅴ 貯蔵品	租税公課、貯蔵品（収入印紙、切手の扱い）
9	テーマ22 決算整理Ⅵ 当座借越 テーマ23 決算整理Ⅶ 経過勘定	当座借越、経過勘定科目についての理解
10	テーマ23 決算整理Ⅶ 経過勘定 項目	当座借越、経過勘定科目についての理解
11	テーマ24 決算整理後残高試算表	10回の授業の続きを行う
12	テーマ25 精算表	精算表の理解と表作成の意味 貸借対照表と損益計算書を作成するまでの一連の流れをしる
13	テーマ26 帳簿の締め切り(英米式決算)	帳簿の締め切りについて英米式決算にて学ぶ
14	期末試験	後期の授業範囲内での試験
15	期末試験のフィードバックと後期のまとめ	期末試験のフィードバックと財務諸表の理解

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級』
参考文献・資料等	TAC公式教材『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級』
備考	日商簿記3級を目指す方は、本授業と問題集、資格試験対策練習を勧める。 授業外では、復習と表を作って書く練習をすることを勧める。

科目名（コード）	ホスピタリティ概論Ⅱ		（ THB120 ）
講義名（コード）	ホスピタリティ概論Ⅱ		（ THB120 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期と同じ。加えて日本人に大変人気のハワイの魅力を理解する venture pitchではテーマに基づいた画期的な提案を目指す。
全体的内容と概要	再訪を促す仕掛けのあるツアー企画を学習する。 Venture Pitchでは考案した提案を効果的にどのように伝えるかを学ぶ。
授業時間外の学修	前期と同じ Venture Pitchでは前年度の優勝企画の動画を繰り返し、視聴する。
履修上の注意事項等	前期と同じ Venture Pitchではグループワークの連携を大切にする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
2	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
3	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
4	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
5	魅力的な海外旅行の企画力の育成	日本人に圧倒的な人気のハワイの秘密の研究を念頭に置き、魅力的な4泊6日のツアーを企画する。
6	魅力的な海外旅行の企画力の育成	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
7	魅力的な海外旅行の企画力の育成	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
8	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
9	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
10	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
11	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	Venture Pitchの前期授賞作を研究しつつ、自由で柔軟な発想を活かしてVenture Pitchの企画を練る
12	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 6グループ
13	Venture Pitchに挑戦することで、自由な発想を育成する。	企画したツアーの発表、ツアーについての意見交換 発表5分、質疑応答3分 各回 5, 7グループ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	私が用意した資料を使う。
参考文献・資料等	旅の動画、旅行会社のツアーパンフレット
備考	Venture Pitchは社会をよくする提案である。日頃からテーマについて問題意識を持つことが大切である。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	地球のアジェンダⅡ		(THB121)
講義名（コード）	地球のアジェンダⅡ		(THB121)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	HB1	単位数	2
授業担当者	居山	時間数	30
成績評価教員	居山	講義期間	後期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。地球のアジェンダに関わる社会課題の認識をふかめるとともに、その軽減につながるアイデアをデジタルの技術を活かして構想する
全体の内容と概要	SDGs全般、地球温暖化、ごみ、飢餓、水、生物多様性、ジェンダー、などの社会課題の理解と改善・解決策の考察
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期授業の目的理解	SDGs 全体像と地球のアジェンダ 前期のReview 今期のSDGsテーマ選定
2	グループ別テーマ選定の調査と議論	今期のSDGsテーマ選定 社会課題の抽出
3	SDGs世界の取り組み状況の理解	地球温暖化 生物多様性 絶滅危惧種 水産資源問題
4		SDGs取り組み事例 世界の状況
5	グループ別テーマについて調査とまとめのグループワーク	SDGsのテーマ別 Group Work 1 実現のための施策 個人と企業 SDGsとESG
6	排出量取引の仕組み理解	排出量取引の仕組みとトレードログソリューション
7	ジェンダーをめぐる問題に関連して具体的な社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 8 : ジェンダーをめぐる問題 ジェンダー平等 女性活躍推進 少子化対策
8	グループ別テーマについて提案まとめのグループワーク	SDGsのテーマ別 Group Work 2 実現のための施策 個人と企業 SDGsとESG
9		課題
10	提案の発表	SDGsのテーマ別 Group Work 3 実現のための施策 個人と企業 Venture Pitch 審査
11	提案の発表	SDGsのテーマ別 Group Work 4 グループまとめ Venture Pitch 審査
12	Venture Pitchの振り返り	Venture Pitch振り返り 課題提示
13	後期全体の振り返り	年間全体振り返り 課題提示
14	試験	期末試験
15	試験の振り返り	追試 + 試験振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	<u>企画・マーケティング・経営企画など多様な分野に従事。欧州6年・中国4年の海外勤務を通じ、EU統合や中国WTO加盟といった変革期に多国籍人材を率いて事業改革を推進。欧州マーケティング統括、中国現地法人社長、本社関連会社社長など要職を歴任。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー II		(THB124)
講義名（コード）	ビジネスマナー IID		(THB124D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 漢字「物・日」を使用した名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週1日目
2	漢字の習得 漢字「生・学」を使用した名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週3日目
3	漢字の習得 漢字「手・合」を使用した名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週5日目
4	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週 1 日目
5	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週3日目
6	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週5日目
7	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 課題FB 第7週1日目
8	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週3日目
9	漢字の習得 演習問題	どんどんつながる漢字練習帳 22課 JLPT模試
10	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第7週6日目
11	漢字の習得 組み合わせの言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週2日目
12	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 25課 総まとめ語彙N2 第8週4日目
13	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 26課 総まとめ語彙N2 第8週6日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー II		(THB124)
講義名（コード）	ビジネスマナー II C		(THB124C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	丹治 理恵	時間数	30時間
成績評価教員	丹治 理恵	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフ、比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目
2	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目
3	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目
4	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑦
5	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 3 ⑧
6	文法・接続詞・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 11 日目
7	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 12 日目
8	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 13 日目
9	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 14 日目
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
12	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 15 日目
13	接続詞・文脈推測・要旨理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！JLPT「読解」N2 Step 2 Level 4 16 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ THB126 ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ THB126 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体的内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	後期授業の方針説明/今後の就職活動/進学活動スケジュールの確認/進路希望調査/ 外国人留学生は特定技能1号（外食）マイページ登録
2	後期の目標進捗発表	前期に立てた自己の目標の進捗を振り返る。進路希望ごとに集まり「あるべき姿」 について話し合う。
3	進学についての理解を深める	3年次編入のスケジュール、応募条件、海外留学への準備スケジュール
4	自己理解	自己理解ツール（エゴグラム）を活用して自身の性格的特徴、得意分野を知る。グ ループ毎に集まり自分の特徴について発表する。
5	生成AIを自己PR作成に活用する。	生成AIを活用して自己PRを作成する。自分の性格的特徴や長所、エピソード（イン ターンシップ、アルバイト、ボランティアほか）をプロンプトに書いて発表。
6	起業について知る	グループごとに企業のメリット、リスクについて調べ発表する。外国人留学生は 「経営・管理」ビザについて調査する。
7	就職活動の選考試験①	面接選考の種類（グループ面接、個人面接）、筆記試験の種類、エントリーシート、自己PR 動画について調べる。代表者が模擬面接を受けて全員で振り返りを行う。
8	業界研究・求人票の見方	企業研究・業界研究をおこない自己の将来の進路選択の一助とする。就職支援アプ リ（マイナビなど）の登録
9	履歴書作成①	学校指定履歴書用紙に記入する。パソコンを使用してもよい。学歴・職歴欄の作 成。添え状（送付状）の書き方・（職歴がある場合）職務経歴書の書き方
10	履歴書作成②	自己PR文作成・志望動機の作成
11	就職活動の選考試験③	グループディスカッション対策。金魚鉢方式により代表者がグループディスカッ ションを行い、全員で振り返りを行う。
12	外国人留学生のための在留資格ガイ ダンス/就活キックオフ	外国人留学生のための在留資格、就職活動の進め方/就活早期化に伴う注意点・総括
13	キャリアガイダンス	就職活動早期化に伴う自己管理、スケジュール管理を行う。キャリアデザイン授業 の総復習。
14	期末試験	履歴書作成
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の回数と順番は、ラーニングスキルの講義日程と調整するため、変動する可能性がありま す。

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	THB128A	情報リテラシー II A	
科目名（コード）	THB128	情報リテラシー II A	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位30
授業担当者		時間数	
成績評価教員		講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	本学の教育理念に基づき、基本となるICTスキルを習得し現代社会の様々な分野で活躍することができることを目標に、基礎からスキルを積み上げ自らキャリアを形成・発展させる能力を養
全体の内容と概要	表計算ソフトExcelを中心に、ビジネス上よく使用される計算式や関数&グラフ機能などについて、演習を中心に学習し知識を定着させる。尚、進捗状況により一部内容を変更する場合があります。
授業時間外の学修	余力がある人は、オプションの問題にも積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	通信環境の事情により、毎回事前に指定するファイルをUSBメモリにダウンロードして授業に持参すること。また、必須課題を未提出の場合は当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション Excel概要・基本用語の理解	Excelの基本用語と画面構成/構成要素 基本操作（p100-115）
2	基本操作をマスターする	範囲指定/書式設定/印刷の方法 練習9&10演習/オプション課題
3	必須課題	Excelの基本操作に関する課題
4	よく使われる計算式と関数1	ビジネスでよく使われる用語と計算式 練習12・13・14/オプション課題
5	よく使われる計算式と関数2	関数のネスト/端数処理/論理関数
6	必須課題	上記授業内容についての課題
7	よく使われる計算式と関数3	関数のネスト/端数処理/論理関数 練習15&16演習/オプション課題
8	よく使われる計算式と関数4	演習
9	グラフ作成の基本	用語の理解/グラフリボンの機能と操作（p153-169） 練習17&18演習
10	適切なグラフを作成できる	いろいろなグラフ（p169-176）/レーダーチャート・複合グラフ作成 グラフの印刷/練習19&20&21演習
11	適切なグラフを作成できる	いろいろなグラフ（p169-176）/レーダーチャート・複合グラフ作成 グラフの印刷/練習19&20&21演習
12	まとめと補足	補足説明/質疑応答他
13	必須課題	上記授業内容についての課題
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN：978-4908434358 書籍名／出版社：Office基礎と情報モラル（Office2019対応）/noa出版
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 II		（ THB132 ）
講義名（コード）	通訳演習 II D		（ THB132D ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1 年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 物事・時間に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課
2	漢字の習得 物事・時間に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週4日目
3	漢字の習得 物事・時間に関する語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週6日目
4	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週2日目
5	漢字の習得、 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週4日目
6	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週6日目
7	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 第7週2日目
8	漢字の習得 言葉の前につく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週4日目
9	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週5日目
10	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第8週1日目
11	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週3日目
12	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 25課 総まとめ語彙N2 第8週5日目
13	後期の内容の理解と定着	後期のまとめ
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 II		（ THB132 ）
講義名（コード）	通訳演習 II C		（ THB132C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1 年生
対象コース	HB1	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字が書ける	第4週 1日目;伝票、申込書、 グループワーク、
2	漢字が書ける	2日目;返事を書く 3日目;メールの書き方 知っている漢字と知らない漢字の区別
3	漢字が書ける	4日目;ビジネスメール 丁寧な漢字グループワーク
4	漢字が書ける	5、6日目;作文ペア推敲 提出 訓読みと音読み
5	復習	小テスト、作文のフィードバック
6	漢字を使う	第5週;パソコン、電気用品の動詞と名詞、N2 模擬試験
7	漢字を見る	第6週 1, 2日目;チラシ、広告の理解
8	漢字を読む	第7週 1日目;募集 2日目;受験 案内、5日目;交通案内
9	漢字の見出し	第8週:見出し、 N2問題練習
10	N2 対策	N2練習問題 苦手、間違いの自己認識
11	N2 対策	N2練習問題 反応練習、グループ演習
12		復習 漢字を使ったペアワーク、グループワーク
13		復習 N2 問題を作ってみる、グループワーク、試験対策練習
14	後期期末試験	学期末試験
15	試験の解説	試験の間違い解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ漢字N2
参考文献・資料等	プリント配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	行動経営学 II（金、3）		(THB 113)
講義名（コード）	行動経営学 II（金、3）		(THB 113)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	Phuyal Mohan フヤル モハン	時間数	30
成績評価教員	Phuyal Mohan フヤル モハン	講義期間	秋
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	他大学で経済学の授業を担当しており、3年以上の講義経験があります。	授業形態	講義対面

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	DXの導入がどのように競争優位を生むのか、そして企業がデジタル化に成功するための戦略的アプローチを理解することを目的とします。
全体的内容と概要	デジタル技術を活用したビジネスモデルや市場の変化を理解し、企業経営や経済への影響を学ぶことを目的とする。特に、デジタルトランスフォーメーション（DX）、の最新動向について議
授業時間外の学修	DXに関する本、ニュースや記事を読むこと。Read books, news, and articles related to Digital Transformation to learn more.
履修上の注意事項等	授業に積極的に参加しわからないことをわかるまで質問する。Active Participation in class and ask questions until you understand.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	デジタル・トランスフォーメーション	前期授業を復習
3	AI とIOT とは何か？	AI・IoTがどのように社会やビジネスに活用されているかを学ぶ
4	同 続き	同 続き Continued
5	仮想現実(VR) と拡張現実(AR)	VR・ARがビジネスや社会でどのように活用されているかを学ぶ
6	同 続き	同 続き Continued
7	3D プリンタとは何か現状と課題	3Dプリンタの産業・社会における活用事例を
8	同 続き	同 続き Continued
9	デジタルビジネスのCase Study	発表の方法とグループ分け
10	デジタルビジネス現状と課題	日本の1つの企業を事例にしてProject Work 発表
11	デジタルビジネスについて	中国Project Work 発表
12	デジタルビジネスについて	インドProject Work 発表
13	デジタルビジネスの現状と課題について	バングラデッシュProject Work 発表
14	試験	Project Work 発表の評価
15	後期授業のまとめ	前期と後期授業を振り返る

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	①イラスト&図解でわかるDX デジタル・トランスフォーメーション デジタル技術で爆発的に成長する産業、破産される産業 著 (兼安 暁) ② 世界一わかりやすいDX入門
参考文献・資料等	必要に応じて教科書などを授業で紹介する。
備考	